

平成30年度4月入学

横浜国立大学大学院理工学府

博士課程後期

(第二次)

学生募集要項

はじめに

本冊子「平成30年度4月入学横浜国立大学大学院理工学府博士課程後期（第二次）学生募集要項」には、平成30年4月に横浜国立大学大学院理工学府博士課程後期へ入学を希望する人に必要な情報が書かれています。

博士課程後期の入学に関する事項はⅠ～Ⅱ章に、博士課程後期の特色や指導教員一覧はⅢ～Ⅳ章に、社会人の修学に関する特例事項はⅤ～Ⅵ章に、出願手続きに必要なとなる書式集はⅦ章に記されています。

内容は多岐にわたっていますので、入学を希望する人は本冊子をよく読んで自分に必要とされる情報を正確に取得し、間違いのないように出願手続きを行ってください。

出願に際しては、あらかじめ希望指導教員あるいは表1（4頁参照）の問い合わせ先担当教員とよく相談した上で願書を提出してください。

理工学府の概要や教員の研究内容などは、横浜国立大学大学院理工学府のウェブサイト（大学院理工学府ウェブサイト内特設ページ）をご覧ください。

<http://gakufu.eng.ynu.ac.jp/reorganize/>

【安全保障輸出管理について】

横浜国立大学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づいて「国立大学法人横浜国立大学 安全保障輸出管理規則」を定めて、物品の輸出、技術の提供、人材の交流の観点から外国人留学生の受入れについては厳格な審査を実施しています。規制されている事項に該当する場合は、希望する研究活動に制限がかかる場合や、教育が受けられない場合がありますので、願書の提出の前に指導教員予定者と相談をするなど、出願にあたっては注意してください。なお、詳細については研究推進機構ホームページを参照してください。

http://www.ripo.ynu.ac.jp/index/adscreening_jp

個人情報の取扱いについて

志願者の入学試験成績及び出願書類等に記載された個人情報については、本学入学者選抜に係る用途の他、本人の申請に伴う入学料免除等の福利厚生関係の資料及び本学における諸調査・研究にも利用することがあります。調査・研究結果を発表する場合は個人が特定できないように処理します。それ以外の目的に個人情報が利用又は提供されることはありません。

目 次

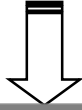
I 一般学生募集要項	・・・ 5頁
II 社会人特別選抜学生募集要項	・・・ 14頁
III 博士課程後期の概要	・・・ 21頁
IV 指導教員一覧	・・・ 25頁
V 大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例 による教育の実施について (社会人技術者又は研究者に対する大学院教育の特例)	・・・ 27頁
VI 長期履修学生について	・・・ 28頁
VII 提出用書式集	・・・ 30頁

用語に関する注意点：この学生募集要項では「博士課程の前期二年の課程」は「**博士課程前期**」とし、
また「博士課程の後期三年の課程」は「**博士課程後期**」として表記しています。

入試日程

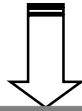
出願資格認定審査（該当者のみ）

平成30年1月9日（火）～1月10日（水）



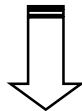
出願期間

平成30年1月30日（火）～2月1日（木）



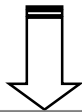
試験日

平成30年2月21日（水）～2月22日（木）



合格発表

平成30年3月8日（木）



入学手続

平成30年3月14日（水）～3月19日（月）

表 1 問い合わせ先担当教員

専攻	ユニット (教育分野)	担当教員名
機械・材料・海洋系工学	機械工学 (機械工学)	百武 徹 准教授 hyakutake-toru-cn@ynu.ac.jp
	材料科学フロンティア (材料工学)	中尾 航 教授 nakao-wataru-hy@ynu.ac.jp
	海洋空間システムデザイン (海洋空間)	宮路 幸二 准教授 miyaji-koji-cg@ynu.ac.jp
化学・生命系理工学	先端化学 (化学, 応用化学)	湊 盟 准教授 minato-makoto-px@ynu.ac.jp
	化学応用・バイオ (化学応用・バイオ)	金井 俊光 准教授 kanai-toshimitsu-fd@ynu.ac.jp
数物・電子情報系理工学	数理科学 (数学)	梶原 健 教授 kajiwara-takeshi-rj@ynu.ac.jp
	物理工学 (物理工学)	洪 鋒雷 教授 hong-feng-lei-mt@ynu.ac.jp
	電子情報システム (応用物理, 情報システム, 電気電子ネットワーク)	倉光 君郎 准教授 kuramitsu-kimio-kx@ynu.ac.jp

※ ユニットは入試実施上の便宜的な名称であり、入学者は上記の各教育分野に所属します。

※ 願書提出前に希望指導教員あるいは問い合わせ先担当教員と相談すること。

I 一般学生募集要項

1. 募集人員

専攻	ユニット ※	教育分野	教育プログラム	募集人員
機械・材料・海洋系工学	機械工学	機械工学	TED 又は PED	若干名
	材料科学 フロンティア	材料工学	TED 又は PED	
	海洋空間 システムデザイン	海洋空間	TED 又は PED	
化学・生命系理工学	先端化学	化学	PSD	若干名
		応用化学	TED	
	化学応用・バイオ	化学応用・バイオ	TED 又は PED	
数物・電子情報系理工学	数理科学	数学	理学	若干名
	物理工学	物理工学	PSD	
	電子情報システム	応用物理	TED 又は PED	
		情報システム		
	電気電子ネットワーク			

※ユニットは入試実施上の便宜的な名称であり、入学者は上記の各教育分野に所属します。

2. 出願資格

次のいずれかに該当する者とする。

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者及び本大学院入学の前までに取得見込みの者
- (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び本大学院入学の前までに授与される見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び本大学院入学の前までに授与される見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び本大学院入学の前までに授与される見込みの者
- (5) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者及び本大学院入学の前までに授与される見込みの者
- (6) 大学を卒業後又は学校教育法第104条第4号の規定により学士の学位を授与された後、大学又は研究所等において2年以上研究に従事した者で、本学府において当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (7) 外国において学校教育における16年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本学府において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

(8) 本学府において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、本大学院入学の前までに24歳に達するもの

[注1] 上記以外の出願資格は認定しません。

[注2] 出願資格(8)に該当する者とは、著書、学術論文、学術講演、学術報告、及び特許などにおいて、修士の学位論文と同等以上の価値があると認められる業績を有する者で、本大学院入学の前までに24歳に達する者です。

[注3] 出願資格(6)～(8)により出願しようとする者は、出願資格認定審査を行います。あらかじめ希望指導教員と相談のうえ、次の書類を任意の封筒に封入し、**平成30年1月9日(火)～1月10日(水)**の間に理工学系大学院等大学院工学府係まで提出してください。出願書類は郵送または窓口で受け付けますが、いずれも期間内必着とします。

(窓口受付は午前9時から午後17時まで。ただし12時45分から13時45分を除く。)

【出願資格(6)、(7)により出願する者】

- ①出願書類送付内訳書(別紙1)
- ②出願資格認定申請書(書式10)
- ③出願資格認定用経歴調書(書式13)
- ④研究業績調書(書式16)
- ⑤研究(希望)計画書(書式17)
- ⑥最終学歴の成績証明書
- ⑦372円の切手(速達料を含む)を貼付した住所及び氏名明記の返信用封筒(長形3号)

【出願資格(8)により出願しようとする者】

- ①出願書類送付内訳書(別紙1)
- ②出願資格認定申請書(書式12)
- ③出願資格認定用経歴調書(書式13)
- ④最終学歴の卒業(見込み)証明書又は在学期間(見込み)証明書
- ⑤最終学歴の成績証明書
- ⑥研究業績調書(書式16)
- ⑦研究(希望)計画書(書式17)
- ⑧372円の切手(速達料を含む)を貼付した住所及び氏名明記の返信用封筒(長形3号)

出願資格認定審査は、横浜国立大学大学院理工学府設置準備委員会において行い、審査の結果は、**平成30年1月19日(金)**に郵送します。出願資格を有すると認められた者は、所定の出願期間に手続きをしてください。その他、出願資格について不明な点は、理工学系大学院等大学院工学府係に問い合わせてください。

後期推薦進学について

本学工学府に在籍し、本大学院の入学までに修士の学位を取得見込みの者について、工学府の推薦により博士課程後期進学の認定を希望する者は、表1(4頁参照)の問い合わせ担当教員及び指導教員へ、**平成30年1月4日(木)**までに事前相談を必ずしてください。

なお、後期推薦進学の認定結果は、**平成30年1月19日(金)**以降に指導教員より本人へ連絡

します。認定された者は、後日配布される「後期推薦進学調書」のほか、本要項綴じ込みの「住所氏名記入用紙（シール）」および長形3号の封筒（住所、氏名、郵便番号を記入の上、速達郵便料金の切手（372円）を貼付）を**平成30年1月30日（火）から2月1日（木）まで**に大学院工学府係に提出してください。最終的に合格した者には、**平成30年3月8日（木）**に合格通知書を郵送します。

3. 出願期間

平成30年1月30日（火）から2月1日（木）までとします。

出願書類の受付は書留郵便のみで、期間内必着とします。窓口受付は行いません。

受付期間後に到着したものは受理しないので、郵便事情等を十分考慮して早めに送付してください。

ただし、出願期間を過ぎて到着した出願書類のうち、**平成30年1月31日（水）までの発信局消印のある書留速達郵便**に限り受理します。

[注] 土曜日、日曜日・祝日は郵便業務を行わない郵便局があるので事前に確認してください。

4. 出願手続

出願する者は、下記の書類を本学指定の封筒に封入して、書留郵便で送付してください。

書類を書き損じた場合は、誤った箇所に二重線を引き、余白に正しい内容を記載してください。

出願書類等	注意事項	書式番号
出願書類送付内訳書	用紙は本学交付のものを使用してください。出願書類は、この用紙に記載されている通りの順番に並べて、封入してください。	別紙 2
入学願書	用紙は本学交付のものを使用してください。外国人留学生のみ、書式2の代わりに書式7を使用することができます。 縦4cm×横3cm 無帽、上半身正面、背景無地、3ヶ月以内に撮影した写真（2枚）を受験票及び入学願書に貼り付けてください。	2 または 7
修了（見込）証明書	出身大学（在籍大学）長又は研究科長が作成したものを提出してください。 ・卒業証書の写しをもって代える場合は必ず卒業証書を事前に窓口提示ください。 ・外国人留学生は、学位証明書など取得学位が記載されているものを併せて提出してください。 ・日本語または英語以外で作成された証明書は、日本語訳または英語訳を添付してください。	
成績証明書	出身大学（在籍大学）長又は研究科長が作成したものを提出してください。 日本語または英語以外で作成された証明書は、日本語訳または英語訳を添付してください。	
在留資格に関する証明 （外国人留学生のみ）	現在日本に居住している外国人は、在留カードの写し（両面）を提出してください。その他の外国人は、パスポートの写しを提出してください。	
外国人留学生履歴書 （外国人留学生のみ）	用紙は本学交付のものを使用してください。記入は日本語又はローマ字体を用いてください。[但し、出願資格(1)による出願者は除く。]	19-1
受入内諾書 （外国人留学生のみ）	用紙は本学交付のものを使用してください。希望指導教員の署名を得たうえで提出してください。ただし、希望指導教員の署名は原本でなくてもかまいません。	19-2

修士論文とその概要	修士論文又はそれに代る論文(1部)とその内容を日本語の場合2000字、英語の場合500 words程度に要約した概要(1部)を提出してください。修士課程修了見込みの者は、修士論文課題と研究の進行状況を2000字程度の文章に要約してください。	
研究業績調書	公表論文その他業績リスト(可能な場合は別刷を添付してください。)	16
研究(希望)計画書	博士課程(後期)における研究(希望)計画書。作成に当たっては、志望するユニットの希望指導教員に問い合わせてください。	17
入学検定料	<p>払込金額：30,000円 払込期間：出願期間に間に合うように払込んでください。 払込方法</p> <p>①海外在住の志願者及び日本国内居住の外国人留学生志願者 クレジットカード(VISA・MasterCard・JCB・American Express・MUFU・DC・UFJ・NICOS)・中国銀聯ネット決済により払込むことができます。詳細は本学ホームページ-入試・入学より「大学院入学検定料のクレジットカードによる払込」をご覧ください。</p> <p>②日本国内居住の日本人及び外国人留学生志願者 【郵便局・ゆうちょ銀行の場合】 ・本学所定の「払込書」を使用してください。(ATMから払込むことはできません。必ず受付窓口で払込んでください。) ・「払込書」のご依頼人欄に、入学志願者(本人)の住所・氏名・電話番号を黒又は青のボールペンで正確に記入してください。 ・「振替払込請求書兼受領証」および「振替払込受付証明書」を受付窓口から受け取る際には、必ず受付局日附印を確認してください。</p> <p>【コンビニエンスストアの場合】 (セブン-イレブン、ローソン、ミニストップ、ファミリーマート、サークルKサンクスに限ります。) ・店内にある情報端末機を利用して払込を行ってください。(ATMでは振込できません。必ずレジで払込んでください。)操作の手順は巻末の「入学検定料支払方法のご案内」を参照してください。</p> <p>[注1]払込済みの「振替払込受付証明書」、「収納証明書」、「支払い完了通知のメール画面を印刷した物」のいずれかを所定の貼付用紙(書式22)の欄に貼り付けて出願書類に同封してください。入学検定料が払込まれていない場合やそれらを貼り付けてない場合は出願を受理しません。</p> <p>[注2]各支払に係る手数料は、入学志願者本人の負担となります。</p> <p>[注3]本学大学院の学府若しくは研究科の博士課程前期、修士課程又は専門職学位課程を本大学院入学の前の月に修了見込みの者、および、外国人留学生志願者のうち日本政府(文部科学省)国費外国人留学生は、払込不要です。(出願の際、必ず国費外国人留学生証明書を同封してください。(コピー不可))</p> <p>※災害救助法等の適用地域の被災者に対する入学検定料免除特別措置について 本学では、災害等で被災した受験生の進学機会を確保する観点から、入学検定料免除の特別措置を行います。詳細は本学ホームページをご覧ください。(http://www.ynu.ac.jp/exam/)</p>	22
返信用封筒 (受験票発送用)	封筒は本学交付の長形3号の封筒を使用してください。 封筒には、日本国内の住所、氏名、郵便番号を記入の上、速達郵便料金の切手(372円)を貼付してください。(1通) 受験票等の発送先は日本国内のみです。志願者が海外在住である場合は、日本国内の受取代理人を指定してください。	
住所氏名記入シール	用紙は本学交付のものを使用してください。(切離さないでください。) 全てのシールに日本国内の住所、氏名、郵便番号を記入してください。	

[注] 提出書類の免除

- ① 本学工学府博士課程前期修了（見込み）者は、修了（見込み）証明書、成績証明書の提出を免除します。
- ② 出願資格（8）により出願しようとする者は、修了（見込み）証明書、成績証明書、研究業績調書、研究（希望）計画書の再提出を免除します。

5. 選抜の方法及び日程

学力検査（外国語（英語）、学科試験、口述試験）、出願書類により選抜を行います。なお、外国語（英語）の試験は、TOEIC、TOEFL のスコアを用いた選抜を実施します。学科試験及び口述試験を1科目でも受験しなかった場合は、合格者とはなりません。

(1) 学力検査

(ア) 学科試験

ユニット	試験内容
機械工学	志望する研究分野からの出題を選択
材料科学フロンティア	
海洋空間システムデザイン	
先端化学	
化学応用・バイオ	
数理科学	
物理工学	
電子情報システム	

(イ) 口述試験

修士論文又はそれに代わる論文（修了見込みの者は研究概要）、博士課程後期入学後の研究計画及び専門学力に関する口述試験を行います。

(2) 学力検査科目・日時

日時	科目名	配点	備考
—	外国語（英語）	100点	TOEIC、TOEFL のスコア証明書（原本）を用います。
2月21日（水）	学科試験	400点	10時30分～12時30分
2月21日（水）～ 2月22日（木）	口述試験	400点	日時や場所は試験室割発表時に指示されます。（5（3）を参照）

- ・受験者は試験開始20分前に試験室に入室してください。
- ・TOEIC、TOEFL のスコア証明書（コピー不可、原本のみ）を学科試験の試験時間中に回収します。
- ・外国人留学生は、学科試験に限り語学の辞書を使用することができますが、電子辞書は使用できません。
- ・外国人留学生は、学科試験および口述試験において解答に英語を使うことを認めます。

(3) 場所

学力検査は、横浜国立大学構内（横浜市保土ヶ谷区常盤台）で行います。試験室割等は、**平成30年2月15日（木）16時頃**に横浜国立大学大学院理工学府のウェブサイト（大学院工学府ウェブサイト内特設ページ）に掲載します。

（ウェブサイトアドレス <http://gakufu.eng.ynu.ac.jp/reorganize/>）

(4) 受験に当たっての指示事項

[学科試験]

ユニット	指示事項
機械工学	なし
材料科学フロンティア	なし
海洋空間システムデザイン	なし
先端化学	プログラム機能をもたない関数電卓の持ち込み可
化学応用・バイオ	プログラム機能をもたない関数電卓の持ち込み可
数理科学	なし
物理工学	なし
電子情報システム	なし

[口述試験]

ユニット	指示事項
機械工学	試験当日までに、希望指導教員に確認すること。
材料科学フロンティア	試験当日までに、希望指導教員に確認すること。
海洋空間システムデザイン	試験当日までに、希望指導教員に確認すること。
先端化学	試験当日までに、希望指導教員に確認すること。
化学応用・バイオ	試験当日までに、希望指導教員に確認すること。
数理科学	試験当日までに、希望指導教員に確認すること。
物理工学	これまでの研究概要と入学後の研究計画についての発表資料ファイルをUSBメモリーに入れて持参すること。
電子情報システム	試験当日までに、希望指導教員に確認すること。

(5) TOEIC、TOEFL のスコアについて

対象となるテストおよび提出するスコア証明書は以下のとおりです。

対象となる試験	提出するスコア証明書	公式サイト
TOEIC Listening & Reading Test（公開テスト）	Official Score Certificate （公式認定証）	TOEIC (http://www.toeic.or.jp/)
TOEFL -iBT TOEFL -PBT	Test Taker Score Report （受験者用控えスコア票）	TOEFL (http://www.cieej.or.jp/toefl/)

※ TOEIC-IP 及び TOEFL-ITP などの団体受験制度、TOEIC Bridge、TOEIC Speaking & Writing Test は認められません。

○TOEIC、TOEFL いずれかのスコア証明書（**コピー不可、原本のみ、以下同じ**）を、**試験当日**に提出してください。スコア証明書は学科試験の試験時間中に回収します。

- スコア証明書は、出願期間の最終日から起算して2年以内のものを提出してください。平成30年度4月入学入試（第二次）では、平成28年2月2日から平成30年2月1日までに受験したテストのスコア証明書を有効とします。複数の試験を受験した場合は、合計得点の最も高いものを提出してください。無効となるスコア証明書を提出した場合や、試験当日にスコア証明書の提出がない場合は、外国語（英語）の試験の得点を0点とみなします。
- スコア証明書は、顔写真付きのものを提出してください。
- TOEIC のスコアについては、次表を用いて100点満点に換算し、外国語（英語）の得点とします。
- 提出されたスコア証明書は、志願者へ返却しません。

換算方法（TOEIC ベース）

TOEIC	換算方法	外国語（英語）
～ 349 点以下	0	0 点
350 点 ～ 500 点	$(\text{TOEIC}-350) \div 3$	0 点～50 点
500 点 ～ 800 点	$(\text{TOEIC}-500) \div 6+50$	50 点～100 点
801 点以上～		100 点

- TOEFL のスコアについては、以下の方法により TOEIC のスコアに換算し、外国語（英語）の得点とします。
- TOEFL-iBT のスコアは、理工学府のウェブサイト（大学院工学府ウェブサイト内特設ページ <http://gakufu.eng.ynu.ac.jp/reorganize/>）に掲載されている換算表により TOEFL-PBT のスコアに換算します。
- TOEFL-PBT のスコアは、 $(\text{TOEFL-PBT スコア}-296) \div 0.348 = \text{TOEIC のスコア}$ に換算します。
- 小数点以下の得点は四捨五入します。

6. 合格者発表

平成30年3月8日（木）16時頃

合格者には「合格通知書」を郵送します。また、横浜国立大学大学院理工学府のウェブサイト（大学院工学府ウェブサイト内特設ページ <http://gakufu.eng.ynu.ac.jp/reorganize/>）に合格者受験番号を掲載します。

[注1] 「合格通知書」をもって、正式な通知とします。

[注2] 電話等による合否結果の問い合わせには一切応じません。

7. 入学時に必要な経費

- (1) 入学料 282,000円（現行）
- (2) 授業料 年額 535,800円（現行）

[注1] (1) は、入学手続期間（**平成30年3月14日（水）～3月19日（月）**）に納入してください。

入学手続書類は合格通知書と一緒に郵送します。

上記の入学手続期間内に手続きを完了しない場合は、入学辞退者として取扱います。

[注2] 入学料及び授業料は、改定される場合があります。

[注 3] 在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新しい授業料が適用されます。

[注 4] 本学大学院の研究科若しくは学府の修士課程又は専門職学位課程を本大学院入学の前月に修了した者および、日本政府（文部科学省）国費外国人留学生については、入学料は不要です。

8. 受験及び修学の上で配慮を必要とする入学志願者の事前相談について

心身の障がい等のある者（下表以外の者も含む）が、受験及び修学の上で配慮が必要となる場合は、出願前までに必ず下記連絡先へ下記の様式により申し出てください。

また、出願後の不慮の事故などにより、受験及び修学の上で配慮が必要となった場合も、その時点で速やかに下記の様式により申し出てください。

なお、下表から判断できない場合については、問い合わせてください。

【代表的な事項】

区 分	障 がい の 程 度
視 覚 障 がい	両眼の視力がおおむね 0.3 未満のもの又は視力以外の視機能障がいが高度のもののうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度のもの
聴 覚 障 がい	両耳の聴力レベルがおおむね 60 デシベル以上のもののうち、補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能又は著しく困難な程度のもの
肢 体 不 自 由	一 肢体不自由の状態が補装具の使用によっても歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度のもの 二 肢体不自由の状態が前号に掲げる程度に達しないもののうち、常時の医学的観察指導を必要とする程度のもの
病 弱	一 慢性の呼吸器疾患、腎臓疾患及び神経疾患、悪性新生物その他の疾患の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度のもの 二 身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度のもの
発 達 障 がい	自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障がい、学習障がい、注意欠陥多動性障がいのため

(様式) A4 判縦

平成 年 月 日

横浜国立大学長 殿

フリガナ

氏 名

生年月日

住 所 〒

電話番号

横浜国立大学に入学を志願したいので、下記のとおり事前に相談します。
記

1. 志望する学府・専攻・教育分野
2. 障がい等の種類、程度
3. 受験に際して配慮を希望する事項・内容
4. 入学後の修学に際して配慮を希望する事項・内容
5. 出身大学在学中にとられていた配慮事項・内容
6. そ の 他

(添付書類) 診断書または身体障害者手帳 (写)、その他参考資料

【申請方法】

- (1) 申請は、前頁様式例を参考に申請書を作成し、診断書または身体障害者手帳（写）、その他参考資料を添えて申請してください。
- (2) 申請内容によっては対応に時間を要する場合もあるので、出願する前のできるだけ早い時期に相談してください。
- (3) 申請・連絡先
〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5 横浜国立大学理工学系大学院等大学院工学府係
電話番号 045-339-3817

9. 注意事項

- (1) 出願書類等に不備がある場合には、受理しないことがあります。
- (2) 出願手続後の提出書類の内容変更は認めません。
- (3) 出願書類等は返却しません。
- (4) 払込済の入学検定料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しません。返還請求の方法は、理工学系大学院等大学院工学府係へお問い合わせください。
 - ア. 入学検定料を払込んだが本学府に出願しなかった（出願書類等を提出しなかった又は出願が受理されなかった。）場合
 - イ. 入学検定料を誤って二重に払込んだ場合※返還額は、返還の際に要する手数料が差し引かれた額となります。
- (5) 出願書類に虚偽の記載があった場合は、入学後でも入学を取り消すことがあります。
- (6) 在留資格「留学」を取得するに当たっては、留学生生活を維持できる経済的基盤を有している必要があります。
- (7) 本試験に関する変更等が生じた場合は、理工学府のウェブサイト（大学院工学府ウェブサイト内特設ページ）でお知らせすると共に出願者に通知します。
- (8) 試験当日は、必ず受験票を携帯してください。
- (9) 学科試験及び口述試験を1科目でも受験しなかった場合は、合格者とはなりません。
- (10) 携帯電話等は、試験室に入る前に電源を切ってカバン等の中にしまってください。
- (11) 官公庁又は会社等に在職している者は、入学手続きの際、その長又は代表者の就学承認書（様式は任意）を必要としますので、あらかじめ用意してください。
- (12) 入学手続後は、どのような事情があっても、入学料の払い戻しはしません。
- (13) 入学後の経済支援制度として、「入学料・授業料免除等制度」・「奨学金制度」等があり、多くの学生が活用しています。

Ⅱ 社会人特別選抜学生募集要項

1. 趣旨

本大学院では、独創的技術開発を推進するに当たって先導的役割を果たしうるような、広汎で応用のきく学識・創造能力・国際感覚の三つを備えた博士の養成を目指しています。この趣旨に基づいて、本大学院においては、大学院を社会と海外に向けて開放しており、通常の課程学生・外国人留学生のほかに、社会人技術者又は研究者等で、その実績に評価すべきものを持ち、博士課程後期への入学にふさわしい専門知識と学力を持つ者を対象として、更に大学院における高度な学術の継続研究と博士の学位取得の道を開くため、特別選抜による入学者選抜を実施しています。また社会人の勉学を容易にするために、大学院設置基準に定める教育方法の特例（Vを参照）による教育を行っています。

なお、あらかじめ希望指導教員とよく相談した上で願書を提出してください。

2. 募集人員

専攻	ユニット ※	教育分野	教育プログラム	募集人員
機械・材料・海洋系工学	機械工学	機械工学	TED 又は PED	若干名
	材料科学 フロンティア	材料工学	TED 又は PED	
	海洋空間 システムデザイン	海洋空間	TED 又は PED	
化学・生命系理工学	先端化学	化学	PSD	若干名
		応用化学	TED	
	化学応用・バイオ	化学応用・バイオ	TED 又は PED	
数物・電子情報系理工学	数理科学	数学	理学	若干名
	物理工学	物理工学	PSD	
	電子情報システム	応用物理	TED 又は PED	
		情報システム		
	電気電子ネットワーク			

※ユニットは入試実施上の便宜的な名称であり、入学者は上記の各教育分野に所属します。

3. 出願資格

社会人技術者又は研究者等であって、本大学院入学の前までに同一企業等に、原則として2年以上正規職員として勤務した経験のある者、又は入学後も同一企業等での身分を有し、勤務成績が優秀であると認められて推薦を受けた者で、次のいずれかに該当する者。

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者及び本大学院入学の前までに取得見込みの者
- (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び本大学院入学の前までに授与される見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び本大学院入学の前までに授与される見込みの者

- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び本大学院入学の前までに授与される見込みの者
- (5) 大学を卒業後又は学校教育法第104条第4号の規定により学士の学位を授与された後、大学又は研究所等において2年以上研究に従事した者で、本学府において当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (6) 外国において学校教育における16年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本学府において、当該研究の成果等により修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

[注1] 上記以外の出願資格の認定については適用しません。

[注2] 社会人特別選抜として出願するすべての者は、出願資格認定審査を行います。あらかじめ希望指導教員と相談のうえ、次の書類を任意の封筒に封入し、**平成30年1月9日(火)～1月10日(水)**の間に理工学系大学院等大学院工学府係まで提出してください。出願書類は郵送または窓口で受け付けますが、いずれも期間内必着とします。

(窓口受付は午前9時から午後17時まで。ただし12時45分から13時45分を除く。)

- ①出願書類送付内訳書(別紙1)
- ②出願資格認定申請書(書式11)
- ③出願資格認定用経歴調書(書式13)
- ④出願資格に応じ、下記のいずれか。
 - a. 出願時に職務を有する者: 受験許可書及び人物推薦書(勤務先の所属長等が作成したものを提出してください。)
 - b. 職務経験者: 研究又は業務に従事した証明書
- ⑤研究業績調書(書式16)
- ⑥研究(希望)計画書(書式17)
- ⑦372円の切手(速達料を含む)を貼付し、住所及び氏名明記の返信用封筒(長形3号)

また、出願資格(5)(6)により出願しようとする場合は、上記の審査に加えて出願資格(5)(6)の出願資格認定審査を行う必要がありますので、社会人特別選抜出願資格認定書類に加えて、次の書類を任意の封筒に封入の上、**平成30年1月9日(火)～1月10日(水)**の間に理工学系大学院等大学院工学府係へ提出してください。出願書類は郵送または窓口で受け付けますが、いずれも期間内必着とします。

- ① 出願資格認定申請書(書式10)
- ② 最終学歴の成績証明書

出願資格認定審査は、横浜国立大学大学院理工学府設置準備委員会において行い、審査の結果は、**平成30年1月19日(金)**に郵送します。社会人特別選抜資格を有すると認められた者は、所定の出願期間に手続きをしてください。

その他、出願資格について不明な点は、本学理工学系大学院等大学院工学府係に問い合わせてください。

4. 出願期間

平成30年1月30日(火)から2月1日(木)までとします。

出願書類の受付は書留郵便のみで、期間内必着とします。窓口受付は行いません。

受付期間後に到着したものは受理しないので、郵便事情等を十分考慮して早めに送付してください。ただし、出願期間を過ぎて到着した出願書類のうち、**平成30年1月31日(水)までの発信局消印のある書留速達郵便**に限り受理します。

[注] 土曜日、日曜日・祝日は郵便業務を行わない郵便局があるので事前に確認してください。

5. 出願手続

出願する者は、下記の書類を本学指定の封筒に封入して、書留郵便で送付してください。

書類を書き損じた場合は、誤った箇所に二重線を引き、余白に正しい内容を記載してください。

出願書類等	注意事項	書式番号
出願書類送付内訳書	用紙は本学交付のものを使用してください。出願書類は、この用紙に記載されている通りの順番に並べて、封入してください。	別紙 2
入 学 願 書	用紙は本学交付のものを使用してください。 縦4cm×横3cm 無帽、上半身正面、背景無地、3ヶ月以内に撮影した写真(2枚)を受験票及び入学願書に貼り付けてください。	3
修了(見込)証明書	出身大学(在籍大学)長又は研究科長が作成したものを提出してください。 ・卒業証書の写しをもって代える場合は必ず卒業証書を事前に窓口提示ください。 ・外国人留学生は、学位証明書など取得学位が記載されているものを併せて提出してください。 ・日本語または英語以外で作成された証明書は、日本語訳または英語訳を添付してください。	
成 績 証 明 書	出身大学(在籍大学)長又は研究科長が作成したものを提出してください。 日本語または英語以外で作成された証明書は、日本語訳または英語訳を添付してください。	
在留資格に関する証明 (外国人留学生のみ)	現在日本に居住している外国人は、在留カードの写し(両面)を提出してください。その他の外国人は、パスポートの写しを提出してください。	
外国人留学生履歴書 (外国人留学生のみ)	用紙は本学交付のものを使用してください。記入は日本語又はローマ字体を用いてください。[但し、出願資格(1)による出願者は除く。]	19-1
受 入 内 諾 書 (外国人留学生のみ)	用紙は本学交付のものを使用してください。希望指導教員の署名を得たうえで提出してください。ただし、希望指導教員の署名は原本でなくてもかまいません。	19-2
修士論文とその概要	修士論文又はそれに代る論文(1部)とその内容を日本語の場合2000字、英語の場合500 words程度に要約した概要(1部)を提出してください。修士課程修了見込みの者は、修士論文課題と研究の進行状況を2000字程度の文章に要約してください。	

入 学 検 定 料	<p>払込金額：30,000 円 払込期間：出願期間に間に合うように払込んでください。 払込方法</p> <p>①海外在住の志願者及び日本国内居住の外国人留学生志願者 クレジットカード (VISA・MasterCard・JCB・American Express・MUFJ・DC・UFJ・NICOS)・中国銀聯網決済により払込むことができます。詳細は本学ホームページ-入試・入学より「大学院入学検定料のクレジットカードによる払込」をご覧ください。</p> <p>②日本国内居住の日本人及び外国人留学生志願者 【郵便局・ゆうちょ銀行の場合】 ・本学所定の「払込書」を使用してください。(ATM から払込むことはできません。必ず受付窓口で払込んでください。) ・「払込書」のご依頼人欄に、入学志願者(本人)の住所・氏名・電話番号を黒又は青のボールペンで正確に記入してください。 ・「振替払込請求書兼受領証」および「振替払込受付証明書」を受付窓口から受け取る際には、必ず受付局日附印を確認してください。 【コンビニエンスストアの場合】 (セブン-イレブン、ローソン、ミニストップ、ファミリーマート、サークルKサンクスに限ります。) ・店内にある情報端末機を利用して払込を行ってください。(ATM では振込できません。必ずレジで払込んでください。)操作の手順は巻末の「入学検定料支払方法のご案内」を参照してください。</p> <p>[注 1] 払込済みの「振替払込受付証明書」、「収納証明書」、「支払い完了通知のメール画面を印刷した物」のいずれかを所定の貼付用紙(書式 22)の欄に貼り付けて出願書類に同封してください。入学検定料が払込まれていない場合やそれらを貼り付けてない場合は出願を受理しません。</p> <p>[注 2] 各支払に係る手数料は、入学志願者本人の負担となります。</p> <p>[注 3] 本学大学院の研究科若しくは学府の修士課程又は専門職学位課程を本大学院入学の前の月に修了見込みの者、および、外国人志願者のうち日本政府(文部科学省)国費外国人留学生は、払込不要です。(出願の際、必ず国費外国人留学生証明書を同封してください。(コピー不可))</p> <p>※災害救助法等の適用地域の被災者に対する入学検定料免除特別措置について 本学では、災害等で被災した受験生の進学のを確保する観点から、入学検定料免除の特別措置を行います。詳細は本学ホームページをご覧ください。(http://www.ynu.ac.jp/exam/index.html)</p>	22
返 信 用 封 筒 (受 験 票 発 送 用)	<p>封筒は本学交付の長形 3 号の封筒を使用してください。 封筒には、日本国内の住所、氏名、郵便番号を記入の上、速達郵便料金の切手 (372 円) を貼付してください。(1 通) 受験票等の発送先は日本国内のみです。志願者が海外在住である場合は、日本国内の受取代理人を指定してください。</p>	
住所氏名記入シール	<p>用紙は本学交付のものを使用してください。(切離さないでください。) 全てのシールに日本国内の住所、氏名、郵便番号を記入してください。</p>	

[注] 提出書類の免除

本学工学研究科・工学府の修了(見込)者は、修了(見込)証明書、成績証明書の提出を免除します。また、出願資格認定申請の際に既に提出した書類は、再提出を免除します。

6. 選抜の方法

出願書類及び面接試験(専攻科目、修士論文、研究業績、研究計画書等に関する口述試験)により選抜します。面接試験を欠席した場合は、合格者とはなりません。

(試験内容)

ユニット	試験内容
機械工学	専攻科目, 修士論文, 研究業績, 研究計画書等に関する口述試験
材料科学フロンティア	専攻科目, 修士論文, 研究業績, 研究計画書等に関する口述試験
海洋空間システムデザイン	専攻科目, 修士論文, 研究業績, 研究計画書等に関する口述試験
先端化学	修士論文または企業での研究内容などと入学後の研究計画に関する口述試験
化学応用・バイオ	修士論文または企業での研究内容などと入学後の研究計画に関する口述試験
数理科学	専攻科目, 修士論文, 研究業績, 研究計画書等に関する口述試験
物理工学	これまでの研究概要と入学後の研究計画に関する口述試験を行う。
電子情報システム	専攻科目, 修士論文, 研究業績, 研究計画書等に関する口述試験

7. 試験日程及び場所

(1) 面接試験

日時	科目名	備考
2月21日(水)～2月22日(木)	面接試験	時間や場所は試験室割発表時に指示されます。 (7(2)を参照)

・受験者は試験開始20分前に試験室に入室してください。

(2) 面接試験の場所

面接試験は、横浜国立大学構内（横浜市保土ヶ谷区常盤台）で行います。

面接の試験室割等は、**平成30年2月15日(木)16時頃**に横浜国立大学大学院理工学府のウェブサイト（大学院理工学府ウェブサイト内特設ページ）に掲載します。

（ウェブサイトアドレス <http://gakufu.eng.ynu.ac.jp/reorganize/>）

(3) 受験に当たっての指示事項

ユニット	指示事項
機械工学	試験当日までに、希望指導教員に確認すること。
材料科学フロンティア	試験当日までに、希望指導教員に確認すること。
海洋空間システムデザイン	試験当日までに、希望指導教員に確認すること。
先端化学	試験当日までに、希望指導教員に確認すること。
化学応用・バイオ	試験当日までに、希望指導教員に確認すること。
数理科学	試験当日までに、希望指導教員に確認すること。
物理工学	これまでの研究概要と入学後の研究計画についての発表資料ファイルをUSBメモリーに入れて持参すること。
電子情報システム	試験当日までに、希望指導教員に確認すること。

8. 合格者発表

平成30年3月8日(木)16時頃

合格者には「合格通知書」を郵送します。また、横浜国立大学大学院理工学府のウェブサイト（大

学院工学府ウェブサイト内特設ページ) に合格者受験番号を掲載します。

(ウェブサイトアドレス <http://gakufu.eng.ynu.ac.jp/reorganize/>)

[注1] 「合格通知書」をもって、正式な通知とします。

[注2] 電話等による合否結果の問い合わせには一切応じません。

9. 入学時に必要な経費

(1) 入学料 282,000円 (現行)

(2) 授業料 年額 535,800円 (現行)

[注1] (1) は、入学手続期間 (**平成30年3月14日(水) ~3月19日(月)**) に納入してください。

入学手続書類は合格通知書と一緒に郵送します。

上記の入学手続期間内に手続きを完了しない場合は、入学辞退者として取扱います。

[注2] 入学料及び授業料は、改定される場合があります。

[注3] 在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新しい授業料が適用されます。

[注4] 本学大学院の研究所若しくは学院の修士課程又は専門職学位課程を本大学院入学の前の月に修了した者および、日本政府(文部科学省)国費外国人留学生については、入学料は不要です。

10. 受験及び修学の上で配慮を必要とする入学志願者の事前相談について

心身の障がい等のある者(下表以外の者も含む)が、受験及び修学の上で配慮が必要となる場合は、出願前までに必ず下記連絡先へ下記の様式により申し出てください。

また、出願後の不慮の事故などにより、受験及び修学の上で配慮が必要となった場合も、その時点で速やかに下記の様式により申し出てください。

なお、下表から判断できない場合については、問い合わせてください。

【代表的な事項】

区 分	障 がい の 程 度
視 覚 障 がい	両眼の視力がおおむね0.3未満のもの又は視力以外の視機能障がいが高度のもののうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度のもの
聴 覚 障 がい	両耳の聴力レベルがおおむね60デシベル以上のもののうち、補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能又は著しく困難な程度のもの
肢 体 不 自 由	一 肢体不自由の状態が補装具の使用によっても歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度のもの 二 肢体不自由の状態が前号に掲げる程度に達しないもののうち、常時の医学的観察指導を必要とする程度のもの
病 弱	一 慢性の呼吸器疾患、腎臓疾患及び神経疾患、悪性新生物その他の疾患の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度のもの 二 身体虚弱の状態が継続して生活規制を必要とする程度のもの
発 達 障 がい	自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障がい、学習障がい、注意欠陥多動性障がいのため

【申請方法】

(1) 申請は、次頁様式例を参考に申請書を作成し、診断書または身体障害者手帳(写)、その他参考資料を添えて申請してください。

(2) 申請内容によっては対応に時間を要する場合もあるので、出願する前のできるだけ早い時期に相

談してください。

(3) 申請・連絡先

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5 横浜国立大学理工学系大学院等大学院工学府係
電話番号 045-339-3817

(様式) A4 判縦

平成 年 月 日

横浜国立大学長 殿

フリガナ

氏 名

生年月日

住 所 〒

電話番号

横浜国立大学に入学を志願したいので、下記のとおり事前に相談します。
記

1. 志望する学府・専攻・教育分野
2. 障がい等の種類、程度
3. 受験に際して配慮を希望する事項・内容
4. 入学後の修学に際して配慮を希望する事項・内容
5. 出身大学在学中にとられていた配慮事項・内容
6. そ の 他
(添付書類) 診断書または身体障害者手帳 (写)、その他参考資料

1 1. 注意事項

- (1) 出願書類等に不備がある場合には、受理しないことがあります。
- (2) 出願手続後の提出書類の変更は認めません。
- (3) 出願書類等は返却しません。
- (4) 払込済の入学検定料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しません。
返還請求の方法は、理工学系大学院等大学院工学府係へお問い合わせください。
ア. 入学検定料を払込んだが本学府に出願しなかった (出願書類等を提出しなかった又は出願が受理されなかった。) 場合
イ. 入学検定料を誤って二重に払込んだ場合
※返還額は、返還の際に要する手数料が差し引かれた額となります。
- (5) 出願書類に虚偽の記載があった場合は、入学後でも入学を取り消すことがあります。
- (6) 本試験に関する変更等が生じた場合は、理工学府のウェブサイト (大学院工学府ウェブサイト内特設ページ) でお知らせすると共に出願者に通知します。
- (7) 試験当日は、必ず受験票を携帯してください。
- (8) 面接試験を欠席した場合は、合格者とはなりません。
- (9) 携帯電話等は、試験室に入る前に電源を切ってカバン等の中にしまってください。
- (10) 官公庁又は会社等に在職している者は、入学手続の際、その長又は代表者の就学承認書 (様式は任意) を必要としますので、あらかじめ用意しておいてください。
- (11) 入学手続後は、どのような事情があっても、入学料の払い戻しはしません。
- (12) 入学後の経済支援制度として、「入学料・授業料免除等制度」・「奨学金制度」等があり、多くの学生が活用しています。

Ⅲ 博士課程後期の概要

1. 大学院教育研究の目的

実践的学術の国際拠点を目指す本学の理工系大学院の基幹をなす理工学府において、自らの専門分野以外の分野の科学技術にも目を向ける進取の精神に富み、高い倫理観とグローバルに活躍するために必要な国際的に通用する知識と能力において理学と工学の両方のセンスを兼ね備えた理工系人材を育成することにより、ものづくりを中心とした産業を更に強化・発展させる。

理工学府博士課程後期では、「自ら探求し発見した課題に対し、科学と技術に関する先進的な研究活動を通して幅広い視野から判断を下した解決をもって、広く社会に受容される発信能力により学術と産業の開拓を先導できる人材を育成する。すなわち、イノベーションの創出と発展を担う創造性豊かな高度専門職業人のリーダー人材」を育成する。

2. 専攻の特色と育成人材像

2.1 機械・材料・海洋系工学専攻

機械工学，材料工学，船舶海洋工学，航空宇宙工学では，マイクロからマクロにわたる物理現象の解析を基礎として，マイクロマシンから大型構造物まで，高度なシステムを総合的に設計する基盤的科学技術の研究や，固体材料の有する力学的特性などの種々の特性の起源に係わる物性論に立脚した，地球と調和した機能及び構造材料の開発ならびにこれら材料の製造・加工方法の研究，及び海洋空間におけるエネルギー利用や移動体・構造物の設計に関わるマクロエンジニアリング的アプローチによる海洋空間利用システムの研究等を通して教育を行い，実践的な高度技術者・研究者のリーダーとしてグローバルに活躍できる創造的な人材を養成する。

2.1.1 教育分野

機械・材料・海洋系工学専攻は，以下の3つの教育分野から構成される。それぞれの教育分野に，付与される学位と教育プログラム名を併記する。

- ・機械工学教育分野：博士（工学），工学（TED）プログラムまたは工学（PED）プログラム
- ・材料工学教育分野：博士（工学），工学（TED）プログラムまたは工学（PED）プログラム
- ・海洋空間教育分野：博士（工学），工学（TED）プログラムまたは工学（PED）プログラム

2.1.2 教育プログラム

機械・材料・海洋系工学専攻での教育は，前節で示した各教育分野で行われるが，学位取得のためのプロセスとしての2つの教育プログラムを用意している。

- ・工学（TED）プログラム（機械工学教育分野，材料工学教育分野，海洋空間教育分野）

機械工学分野では，機械工学又はそれに関連する航空宇宙工学分野に関する博士課程前期レベルの専門知識を有し，先進的な機械や機械システムを構築するための卓越した能力を備えた独創性豊かな研究者・技術者を目指す人を求める。材料工学分野では，材料工学・材料科学又

はそれに関連する航空宇宙工学分野に関する博士課程前期レベルの専門的知識を有し、材料の力学と加工、材料の強度と組織、材料の機能と構造、材料の物理化学のいずれかの分野に関する高度で先進的な研究・技術に興味がある人を求める。海洋空間分野では、船舶海洋工学又はそれに関連する航空宇宙工学分野に関する博士課程前期レベルの専門的知識を有し、海洋空間を利用するための先進技術や基盤技術を統合する技術に積極的に取り組める人を求める。

・工学 (PED) プログラム (機械工学教育分野, 材料工学教育分野, 海洋空間教育分野)

機械工学分野では、機械工学又はそれに関連する航空宇宙工学分野に関する博士課程前期レベルの専門知識を有し、機械工学に係わる諸問題に対してグローバルに対応できる、実務能力を備えた自立した実務家・研究者を目指す人を求める。材料工学分野では、材料工学・材料科学又はそれに関連する航空宇宙工学分野に関する博士課程前期レベルの専門的知識を有し、材料の力学と加工、材料の強度と組織、材料の機能と構造、材料の物理化学のいずれかの分野の高度で実践的な研究・技術に興味がある人を求める。海洋空間分野では、船舶海洋工学又はそれに関連する航空宇宙工学分野に関する博士課程前期レベルの専門的知識を有し、海洋空間を利用するための機器の計画、建造、運用に関する実践的かつ高度な技術課題に積極的に取り組める人を求める。

2.2 化学・生命系理工学専攻

原子の集合体としての分子や固体材料、分子の集合体としての有機材料は、その電子構造及び原子や分子の種類とその配列によって現れる機能が大きく変化する。そのためその構造-機能発現相関を明らかにすることは物質化学の根幹をなす。また物質の持つ化学エネルギーを効率よく利用し、多種多様な情報を統合して新素材を効率よく製造するプロセスの確立は、環境負荷を少なく効率的に物質を製造・利用するための最重要課題である。食料問題や生命・医療などのグローバルな課題の解決に生命現象の解明と応用が必要である。本専攻では、新しい機能を発現する分子・材料の開発、製造や利用プロセスの開発、生命現象の解明と応用などを通し、物質と生命の課題を発見し地球環境に配慮して効率的に解決できる創造的な人材を育成する。

2.2.1 教育分野

化学・生命系理工学専攻は、以下の3つの教育分野から構成される。それぞれの教育分野に、付与される学位と教育プログラム名を併記する。

- ・化学教育分野：博士（理学），理学（PSD）プログラム
- ・応用化学教育分野：博士（工学），工学（TED）プログラム
- ・化学応用・バイオ教育分野：博士（工学），工学（TED）プログラムまたは工学（PED）プログラム

2.2.2 教育プログラム

化学・生命系理工学専攻での教育は、前節で示した各教育分野で行われるが、学位取得のためのプロセスとしての3つの教育プログラムを用意している。

・工学 (TED) プログラム (応用化学教育分野, 化学応用・バイオ教育分野)

物質・材料の基盤となる無機化学, 分析化学, 物理化学, 有機化学等の諸分野に加え, 材料工学, エネルギー化学, 触媒化学, 高分子化学, 生化学, 化学工学, 生物工学等に関する高度な知識を有し, 新しい機能を発現する分子・材料の開発, 製造や利用プロセスの開発, 生命現象の解明と応用, 物質と生命の課題を発見し地球環境に配慮して効率的に解決する力を育成する。本プログラムでは, 化学, エネルギー化学, バイオ・ライフサイエンスおよびこれらの関連分野に関して, 高度な研究・開発能力, 及び未知の問題に対して幅広い視野から柔軟かつ総合的に判断し解決できる能力を身に付けた人材を求める。

・工学 (PED) プログラム (化学応用・バイオ教育分野)

物質・材料の基盤となる化学の諸分野に加え, 材料工学, 化学工学, 生物工学, 生化学等に関する高度な知識を有し, 先端物質・材料の創製と製造, エネルギー化学, 及びバイオ・ライフサイエンスに関する高度な研究・開発能力, 未知の問題に対して幅広い視野から柔軟かつ総合的に判断し解決できる能力, 基礎知識を総合して応用技術を構築する先進的な能力を育成する。本プログラムでは, 化学工学, エネルギー化学, 材料工学, バイオ・ライフサイエンスおよびこれらの関連分野に関して, 高度な実践的な能力の育成を目指す工学系教育を行い, 自らの知識, 経験, 技術, 洞察力などを統合して新しい産業応用展開方向を生み出す力, リーダーとなる能力を養成する。

・理学 (PSD) プログラム (化学教育分野)

無機化学, 分析化学, 物理化学, 有機化学, 触媒化学, 高分子化学, 電気化学, 生物化学等の化学の諸分野において, 分子・材料の設計原理およびその合成方法の深い探求や, 化学的事象・物性等の詳細な解明を行うことにより, 化学分野における高度の学術的探求能力を涵養するとともに, 研究成果を国際的に発信する能力を育成する。併せて, 材料工学, 触媒工学, 生物工学等, 化学・生命系諸分野の工学的応用に関する教育により, 化学分野における工学的価値観を確立する。これらを総合することにより, 理学的な真理探究のみならず, 理学的基礎科学に基づいた次世代の基盤材料開発にも貢献できる高度の能力を身に付けた, 学界・産業界で国際的に活躍できる人材を養成する。

2.3 数物・電子情報系理工学専攻

数物・電子情報系理工学専攻 (博士課程後期) の人材養成目的は, 数理科学, 物理学などの基礎 (理学) から応用 (工学) に至る広範囲な分野に精通した総合的・学際的見識が求められているのは博士課程前期と同様であるが, 博士課程後期では, 博士課程前期までに培った知識を世界トップレベルの研究活動を通じて深化させ, 先導的に数理科学, 物理学, 電気工学, 電子工学, 通信工学, 情報工学, 医療情報工学, 応用物理学などの分野における学術・産業の創出, 発展を担い, 激変する知識基盤社会・高度情報化社会の諸問題を創造的に解決できる研究者・技術者のリーダー人材を育成することである。

2.3.1 教育分野

数物・電子情報系理工学専攻は、以下の5つの教育分野から構成される。それぞれの教育分野に、付与される学位と教育プログラム名を併記する。

- ・数学教育分野：博士（理学），理学（理学）プログラム
- ・物理工学教育分野：博士（理学），理学（PSD）プログラム
- ・応用物理教育分野：博士（工学），工学（TED）プログラムまたは工学（PED）プログラム
- ・情報システム教育分野：博士（工学），工学（TED）プログラムまたは工学（PED）プログラム
- ・電気電子ネットワーク教育分野：博士（工学），工学（TED）プログラムまたは工学（PED）プログラム

2.3.2 教育プログラム

- ・工学（TED）プログラム（応用物理教育分野，情報システム教育分野，電気電子ネットワーク教育分野）

電気・電子ネットワーク分野，情報システム分野，応用物理分野の基礎的な学力と専門分野において博士課程前期レベルの能力を有し，高度の研究・開発能力，自ら課題を探求し，未知の問題に対して幅広い視野から柔軟かつ総合的な判断を下して解決できる力を持ち，成果を国際的に発信する能力を有し，新しい研究の方向を開拓するリーダーとなることに情熱を持つ人を求める。

- ・工学（PED）プログラム（応用物理教育分野，情報システム教育分野，電気電子ネットワーク教育分野）

上記の分野において博士課程前期レベルの能力を有し，電気・電子・通信・情報などの分野のスタジオで論文作成指導を受け，専門性をさらに研鑽し，博士の学位を取得することに情熱を持つ人を求める。また，社会で活躍できる実務家の観点から学位論文を作成し，博士の学位を取得することに情熱を持つ人を求める。

- ・理学（PSD）及び理学プログラム（物理工学教育分野，数学教育分野）

物理学又は数学の各分野において博士課程前期レベルの能力，高度な研究・開発能力，及び成果を国際的に発信する能力を有する人を求める。また，自ら新しい問題・課題を発見し，それを物理学又は数学の概念を利用して論理的に解決する道を開く意欲と決意をもつとともに，これらを通して，新しい研究分野を開拓するリーダーとなることに情熱を持つ人を求める。

IV 指導教員一覧

各指導教員の詳細については、横浜国立大学大学院理工学府ウェブサイト(大学院理工学府ウェブサイト内特設ページ <http://gakufu.eng.ynu.ac.jp/reorganize/index.html>) の「入試情報」を参照のこと。

専攻	ユニット	氏名	職名	担当教育分野(プログラム)	
機械・材料・海洋系工学	機械工学	秋庭 義明	教授	機械工学(TED/PED)	
		石井 一洋	教授	機械工学(TED/PED)	
		于 強	教授	機械工学(TED/PED)	
		佐藤 恭一	教授	機械工学(TED/PED)	
		眞田 一志	教授	機械工学(TED/PED)	
		西野 耕一	教授	機械工学(TED/PED)	
		松井 純	教授	機械工学(TED/PED)	
		松本 裕昭	教授	機械工学(TED/PED)	
		丸尾 昭二	教授	機械工学(TED/PED)	
		荒木 拓人	准教授	機械工学(TED/PED)	
		太田 裕貴	准教授	機械工学(TED/PED)	
		尾崎 伸吾	准教授	機械工学(TED/PED)	
		加藤 龍	准教授	機械工学(TED/PED)	
		北村 圭一	准教授	機械工学(TED/PED)	
		酒井 清吾	准教授	機械工学(TED/PED)	
		篠塚 淳	准教授	機械工学(TED/PED)	
		鷹尾 祥典	准教授	機械工学(TED/PED)	
		百武 徹	准教授	機械工学(TED/PED)	
		潤脇 大海	准教授	機械工学(TED/PED)	
		前田 雄介	准教授	機械工学(TED/PED)	
		杉内 肇	講師	機械工学(TED/PED)	
	材料科学	フロンティア	梅澤 修	教授	材料工学(TED/PED)
		中尾 航	教授	材料工学(TED/PED)	
		廣澤 渉一	教授	材料工学(TED/PED)	
		向井 剛輝	教授	材料工学(TED/PED)	
		中津川 博	准教授	材料工学(TED/PED)	
		長谷川 誠	准教授	材料工学(TED/PED)	
		前野 智美	准教授	材料工学(TED/PED)	
	海洋空間	システムデザイン	上野 誠也	教授	海洋空間(TED/PED)
		岡田 哲男	教授	海洋空間(TED/PED)	
		川村 恭己	教授	海洋空間(TED/PED)	
		日野 孝則	教授	海洋空間(TED/PED)	
		高木 洋平	准教授	海洋空間(TED/PED)	
		西 佳樹	准教授	海洋空間(TED/PED)	
		樋口 丈浩	准教授	海洋空間(TED/PED)	
		平川 嘉昭	准教授	海洋空間(TED/PED)	
		宮路 幸二	准教授	海洋空間(TED/PED)	
		村井 基彦	准教授	海洋空間(TED/PED)	
		化学・生命系理工学	先端化学	跡部 真人	教授
大山 俊幸	教授			化学(PSD)、応用化学(TED)	
窪田 好浩	教授			化学(PSD)、応用化学(TED)	
児嶋 長次郎	教授			化学(PSD)、応用化学(TED)	
多々見 純一	教授			化学(PSD)、応用化学(TED)	
獨古 薫	教授			化学(PSD)、応用化学(TED)	
山口 佳隆	教授			化学(PSD)、応用化学(TED)	
飯島 志行	准教授			化学(PSD)、応用化学(TED)	
稲垣 怜史	准教授			化学(PSD)、応用化学(TED)	
上野 和英	准教授			化学(PSD)、応用化学(TED)	
生方 俊	准教授			化学(PSD)、応用化学(TED)	
川村 出	准教授			化学(PSD)、応用化学(TED)	
菊地 あづさ	准教授			化学(PSD)、応用化学(TED)	
癸生川 陽子	准教授			化学(PSD)、応用化学(TED)	
五東 弘昭	准教授			化学(PSD)、応用化学(TED)	
佐藤 浩太	准教授			化学(PSD)、応用化学(TED)	
關 金一	准教授			化学(PSD)、応用化学(TED)	
湊 盟	准教授			化学(PSD)、応用化学(TED)	
迫村 勝	講師			化学(PSD)、応用化学(TED)	

専攻	ユニット	氏名	職名	担当教育分野(プログラム)
化学・生命系理工学	化学応用・バイオ	岡崎 慎司	教授	化学応用・バイオ(TED/PED)
		奥山 邦人	教授	化学応用・バイオ(TED/PED)
		栗原 靖之	教授	化学応用・バイオ(TED/PED)
		高橋 宏治	教授	化学応用・バイオ(TED/PED)
		武田 穰	教授	化学応用・バイオ(TED/PED)
		羽深 等	教授	化学応用・バイオ(TED/PED)
		光島 重徳	教授	化学応用・バイオ(TED/PED)
		吉武 英昭	教授	化学応用・バイオ(TED/PED)
		金井 俊光	准教授	化学応用・バイオ(TED/PED)
		黒田 義之	准教授	化学応用・バイオ(TED/PED)
		鈴木 敦	准教授	化学応用・バイオ(TED/PED)
		中村 一徳	准教授	化学応用・バイオ(TED/PED)
		福田 淳二	准教授	化学応用・バイオ(TED/PED)
		松澤 幸一	准教授	化学応用・バイオ(TED/PED)
森 昌司	准教授	化学応用・バイオ(TED/PED)		
相原 雅彦	講師	化学応用・バイオ(TED/PED)		
数物・電子情報系理工学	数理科学	梶原 健	教授	数学(理学)
		黒木 学	教授	数学(理学)
		今野 紀雄	教授	数学(理学)
		塩路 直樹	教授	数学(理学)
		竹居 正登	准教授	数学(理学)
		本田 淳史	准教授	数学(理学)
	物理工学	梅原 出	教授	物理工学(PSD)
		大野 かおる	教授	物理工学(PSD)
		洪 鋒雷	教授	物理工学(PSD)
		小坂 英男	教授	物理工学(PSD)
		関谷 隆夫	教授	物理工学(PSD)
		武田 淳	教授	物理工学(PSD)
		山本 勲	教授	物理工学(PSD)
		石渡 信吾	准教授	物理工学(PSD)
		一柳 優子	准教授	物理工学(PSD)
		上原 政智	准教授	物理工学(PSD)
		大野 真也	准教授	物理工学(PSD)
		片山 郁文	准教授	物理工学(PSD)
		片寄 祐作	准教授	物理工学(PSD)
		蔵本 哲治	准教授	物理工学(PSD)
		島津 佳弘	准教授	物理工学(PSD)
		首藤 健一	准教授	物理工学(PSD)
		白崎 良演	准教授	物理工学(PSD)
		津嶋 晴	准教授	物理工学(PSD)
		中村 正吾	准教授	物理工学(PSD)
		堀切 智之	准教授	物理工学(PSD)
	南野 彰宏	准教授	物理工学(PSD)	
	Raebiger Hannes	准教授	物理工学(PSD)	
	電子情報システム	新井 宏之	教授	応用物理(TED/PED)、情報システム(TED/PED)、電気電子ネットワーク(TED/PED)
		大山 力	教授	応用物理(TED/PED)、情報システム(TED/PED)、電気電子ネットワーク(TED/PED)
		落合 秀樹	教授	応用物理(TED/PED)、情報システム(TED/PED)、電気電子ネットワーク(TED/PED)
		河野 隆二	教授	応用物理(TED/PED)、情報システム(TED/PED)、電気電子ネットワーク(TED/PED)
		竹村 泰司	教授	応用物理(TED/PED)、情報システム(TED/PED)、電気電子ネットワーク(TED/PED)
		羽路 伸夫	教授	応用物理(TED/PED)、情報システム(TED/PED)、電気電子ネットワーク(TED/PED)
		馬場 俊彦	教授	応用物理(TED/PED)、情報システム(TED/PED)、電気電子ネットワーク(TED/PED)
		濱上 知樹	教授	応用物理(TED/PED)、情報システム(TED/PED)、電気電子ネットワーク(TED/PED)
藤本 康孝		教授	応用物理(TED/PED)、情報システム(TED/PED)、電気電子ネットワーク(TED/PED)	
吉川 信行		教授	応用物理(TED/PED)、情報システム(TED/PED)、電気電子ネットワーク(TED/PED)	
荒川 太郎		准教授	応用物理(TED/PED)、情報システム(TED/PED)、電気電子ネットワーク(TED/PED)	
市毛 弘一		准教授	応用物理(TED/PED)、情報システム(TED/PED)、電気電子ネットワーク(TED/PED)	
大矢 剛嗣		准教授	応用物理(TED/PED)、情報システム(TED/PED)、電気電子ネットワーク(TED/PED)	
久我 宣裕		准教授	応用物理(TED/PED)、情報システム(TED/PED)、電気電子ネットワーク(TED/PED)	
倉光 君郎		准教授	応用物理(TED/PED)、情報システム(TED/PED)、電気電子ネットワーク(TED/PED)	
島 圭介		准教授	応用物理(TED/PED)、情報システム(TED/PED)、電気電子ネットワーク(TED/PED)	
下野 誠通		准教授	応用物理(TED/PED)、情報システム(TED/PED)、電気電子ネットワーク(TED/PED)	
辻 隆男		准教授	応用物理(TED/PED)、情報システム(TED/PED)、電気電子ネットワーク(TED/PED)	
西島 喜明	准教授	応用物理(TED/PED)、情報システム(TED/PED)、電気電子ネットワーク(TED/PED)		
山梨 裕希	准教授	応用物理(TED/PED)、情報システム(TED/PED)、電気電子ネットワーク(TED/PED)		

V 大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例 による教育の実施について (社会人技術者又は研究者に対する大学院教育の特例)

近年、大学院における社会人技術者又は研究者の継続研修・再教育及び博士の学位取得の要望が高まっておりますが、通常の方法のみで大学院教育を実施した場合、社会人は、最低博士課程前期は2年間、博士課程後期は3年間その勤務を離れて就学することが必要となるため、大学院教育を受ける機会が制約されがちです。

一方、大学院設置基準（文部科学省令）第 14 条では、「大学院の課程においては教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期においては授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。」旨規定されており、社会人等の就学に配慮がなされています。これらの背景を踏まえ同条に定める教育方法の特例を大学院での履修を希望する社会人技術者又は研究者に対し実施しています。

この内容は次のとおりです。

- (1) 修学年限（博士課程前期2年、博士課程後期3年）のうち1年間は、原則として、全日登学をすること。
- (2) 特例による授業は平日の夜間（17時50分～19時20分）に開設するが、昼間の授業を含めた全時間帯の受講を許可する。
- (3) 博士課程前期では学業に専念する1年間は主として修士研究に充てられるように修了に必要な授業の単位修得は夜間（17時50分～19時20分）の授業を利用して行うよう履修計画を立てること。したがって、学業に専念する期間における昼間の受講は夜間に開講されていない授業に限ることが望ましい。
- (4) 入学に当たっては、指導教員の指導のもとに、博士課程前期は2年間、博士課程後期は3年間を見通した履修計画をたてること。
- (5) 修学年限で修了するのが勤務の都合上無理な場合は、あらかじめ博士課程前期は3～4年間、博士課程後期は4～6年間にわたる履修計画をたてることも考慮すること。
- (6) 「特例」による履修計画の変更はその都度申し出て許可を得ること。

本学大学院理工学府は、上記特例の適用によって、勤務を離れる期間を1年間に短縮する条件を醸成することにより、通常の方法のみでは実現することが難しい社会人技術者の大学院入学の機会を与えて、継続研修及び再教育の場を提供することを目指しております。研究のテーマに柔軟性を持たせ、企業での実践的研究も、その研究が修士・博士研究にふさわしければ認めるなど、社会人の入学を橋渡しとして、大学と産業界との交流を深め、新しい学問と技術の発展に寄与することも特例を実施する目的の一つであります。

※PED プログラム 博士課程後期社会人学生についての特例

- (1) 指導教員の指示に従い、選択したモジュールの修得要件を満たす講義科目履修計画をたて、スタジオで研究指導を受ける。
- (2) 特例による授業は、平日の夜間（17時50分～19時20分）又は土日（2日間で7.5コマ）に開設するが、昼間の授業を含めた全時間帯の受講を許可する。
- (3) 「特例」による履修計画の変更は、その都度申し出て許可を得ること。

VI 長期履修学生について

長期履修学生とは、職業を有している等の事情により、標準修業年限（博士課程前期2年，博士課程後期3年）を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修して課程を修了することが認められた者をいいます。

長期履修学生に認定された者は、一般の学生とは異なり、修学年数に関係なく、標準修業年限（博士課程前期2年，博士課程後期3年）分の授業料で修学することができます。

1. 申請資格

長期履修学生として申請することができる者は、社会人特別選抜に出願し合格した者（社会人合格者）で入学後も職業を有している者とする。

2. 申請の手続き

長期履修学生の申請を希望する者は、次の手順に従い手続きを行ってください。下記手続きの、ひとつでも怠ると審査の対象者とならないので注意すること。

(1) 出願前

志望指導教員に連絡を取る段階で、長期履修学生の適用を希望する旨申し出ること。

(2) 出願時

入学願書の長期履修学生適用希望欄にチェックを入れること。

(3) 入学手続き時

長期履修学生を希望する者は、次の①②の書類を入学手続き時に提出してください。

- ① 長期履修学生申請書（別紙様式1：入学手続き書類送付時に送付予定（上記（1）、（2）の手続きを行った者にのみ送付））
- ② 在職証明書又は在職が確認できる書類
- ③ 提出期間は、平成30年3月14日（水）～3月19日（月）（期間厳守）で、入学手続き書類と同封のうえ、理工学系大学院等大学院工学府係へ提出してください。

3. 可否の認定

申請書類に基づき審査のうえ、認定の可否を決定し、4月中旬に通知します。

4. 在学期間

長期履修学生の在学期間は、博士課程前期にあつては2年以上4年まで、博士課程後期にあつては3年以上6年までとなります。

なお、各年度の修了月は、3月のほかに6月，9月，12月となっていますので、長期履修学生申請書に修了予定年月を記入してください。

5. 授業料の年額

長期履修学生の授業料年額は、授業料の年額に標準修業年限に相当する年数を乗じて得た額を在学期間の年数で除した額となります。

(算出例1) 博士課程前期の長期履修学生申請者が在学期間3年と認定された場合
$$535,800 \text{ 円} \times 2 \text{ 年} \div 3 \text{ 年} = 357,200 \text{ 円}$$

(授業料の年額) (標準修業年限) (認定された在学期間) (長期履修学生の授業料年額)

(算出例2) 博士課程後期の長期履修学生申請者が在学期間5年と認定された場合
$$535,800 \text{ 円} \times 3 \text{ 年} \div 5 \text{ 年} = 321,480 \text{ 円}$$

(授業料の年額) (標準修業年限) (認定された在学期間) (長期履修学生の授業料年額)

6. 在学期間の短縮

長期履修学生は、認定された在学期間を短縮することができます。在学期間の短縮を希望する者は、当該学年を修了する2ヶ月前までに「長期履修学生在学期間短縮願」を提出し、承認を得なければなりません。

*詳細については必ず窓口にご相談すること。

7. 在学期間の延長

長期履修学生で特別な事情がある場合は、在学期間の延長をすることができます。在学期間の延長を希望する者は、在学期間が満了する2ヶ月前までに「長期履修学生在学期間延長願」を提出し、承認を得なければなりません。ただし、在学期間の延長は1度限りです。

なお、在学期間は、博士課程前期4年、博士課程後期6年を超えることができません

また、在学期間延長後の授業料は、標準修業年限(博士課程前期2年、博士課程後期3年)分の授業料からすでに納付済みの授業料を差し引いた分を延長期間で新たに算出し、納付することになります。

8. その他

長期履修学生の申請にあたっては、入学願書出願前までに志望指導教員とよく相談してください。

Ⅶ 提出用書式集

以降のページには、横浜国立大学大学院理工学府博士課程後期を受験するために必要な提出書類の書式を集めてあります。以下の表は、それぞれの書式の使い方についてまとめてあります。

書式番号	書式タイトル	利用方法および使用にあたっての注意
別紙 1	出願書類送付内訳書（出願資格認定審査）	出願資格認定審査出願時の提出書類に同封
別紙 2	出願書類送付内訳書	出願時の提出書類に同封
書式 2	一般学生 入学願書	綴じ込まれている用紙を使用 外国人留学生は書式 7 で代替可
書式 3	社会人特別選抜 入学願書	綴じ込まれている用紙を使用
書式 7	外国人留学生 入学願書	綴じ込まれている用紙を使用 書式 2 で代替可
書式 10	出願資格認定申請書 ・一般学生 出願資格（6）（7） ・社会人特別選抜 出願資格（5）（6）	綴じ込まれている用紙を使用
書式 11	出願資格認定申請書 ・社会人特別選抜	綴じ込まれている用紙を使用
書式 12	出願資格認定申請書 ・一般学生 出願資格（8）	綴じ込まれている用紙を使用
書式 13	出願資格認定用経歴調書 ・一般学生 出願資格（6）（7）（8） ・社会人特別選抜	綴じ込まれている用紙、または本大学院のウェブサイトで公開されている用紙を使用。
書式 16	研究業績調書 ・一般学生 出願資格（6）（7）（8） ・社会人特別選抜	綴じ込まれている用紙または本大学院のウェブサイトで公開されている用紙を使用。
書式 17	研究（希望）計画書 ・一般学生 出願資格（6）（7）（8） ・社会人特別選抜	綴じ込まれている用紙または本大学院のウェブサイトで公開されている用紙を使用。 ただし、本文は 1,000 字以内で作成してください。
書式 19-1	外国人留学生履歴書	綴じ込まれている用紙を使用
書式 19-2	受入内諾書	綴じ込まれている用紙を使用
書式 22	検定料支払（払込）受付証明書貼付用紙 （入学検定料 30,000 円）	綴じ込まれている用紙を使用